

作品 No.297



生きものの“つぶやき”:

「あの夕陽まで届け！」

エッセイ:

カメラを手に芦ノ湖の湖畔をあるいていると、足元に小さな「森」を見つけた。私は寝そべる様にしてその苔の森をじっと見つめた。

精一杯朔を伸ばして、「あの夕陽まで届け！」と言わんばかりに少しでも遠くまで胞子を飛ばそうとするその姿は、美しくも逞しい生命の営みを形にしたようなようだった。灯台もと暗しと言うのだろうか。普段目につかない足元にまで懸命に生きる命があるのだ。そんなことを、この苔の森は私に気づかせてくれた。

そして私は、ついさっきまで湖に映る夕陽やその上を飛ぶサギなんかに向けていたレンズを気がつけばその苔の森へ向けていた。シャッターを押す。そこには夕陽を受けて光輝く生命の姿があった。(291字)

生きものの紹介:

ハイゴケの仲間 (恐らく)

ハイゴケ科ハイゴケ属、日本全土に分布する。

撮影場所・日時:

神奈川県足柄下郡箱根町 芦ノ湖・2018年12月19日

応募者の自己紹介:

1. 樋口 倫太郎 / 私立東京農業大学第一高等学校 1年
2. 生物部所属
3. 将来の夢: 農業関連の仕事。

審査員よりひとこと

ミクロの世界に「森」を見出した発想が素晴らしい。小さなコケでも我々と同じ生物の一員であることを気づかせてくれる作品です。